

# 九州の南岸から得られたハベケブカガニ (十脚目：短尾下目：ケブカガニ科) の記録

前之園唯史

〒 901-2111 沖縄県浦添市経塚 1-4-5 102 株式会社かんきょう社

## Abstract

A pilumnid crab, *Pilumnus habei* Takeda and Miyake, 1972 (Decapoda: Brachyura), is reported based on the specimens collected from the south coast of Kyushu, southern Japan. A brief description and several figures of these specimens are provided. This record represents the first discovery of the species from Kyushu Island.

## はじめに

ケブカガニ科のハベケブカガニ *Pilumnus habei* Takeda and Miyake, 1972 は、千葉県小湊産の雌 2 標本に基づいて記載された種であり (Takeda and Miyake, 1972), 原記載以降にもいくつかの追加記録があるものの、採集例の少ない稀な種である (渡部, 2020)。鹿児島県では種子島から採集されているが (武田, 1976), これまで九州沿岸からの採集記録はない。

筆者は、九州の南端に位置する鹿児島県指宿市から本種の標本を得たため、採集標本の形態的特徴を示すととも九州初記録としてここに報告する。

## 材料と方法

本研究で使用した標本は、70% エタノールの液浸標本として琉球大学博物館、風樹館 (RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan) に収蔵されている。標本の大きさは甲長 × 甲幅で示した。

*Pilumnus habei* Takeda and Miyake, 1972

## ハベケブカガニ

(Figs. 1, 2)

**標本** RUMF-ZC-7141, 2 雄 (3.5 × 4.8, 6.5 × 8.9 mm), 鹿児島県指宿市魚見港, 2019 年 1 月 5 日, 前之園唯史採集。

**形態 (雄のみ)** 甲の背面観は幅広い楕円形。甲幅は甲長の 1.37 倍 ( $n = 2$ )。甲の背面は前後方向に強く膨らみ、浅くやや幅広い溝で甲域が分けられる。甲の背面は様々な長さの剛毛 (ただし、多くは短い) と疎らな顆粒で覆われる。この顆粒は、甲の前側縁に近いものほど大きく先端が尖る。額は腹面側に強く傾き、中央は V 字型に切れ込む。額の前縁には尖った顆粒が並び、中央の切れ込みの両脇に位置する 1 対は他の顆粒よりも大きい。額の外縁には明瞭な棘状突起を具え、この突起と眼窩上縁の内突起との間は U 字型に窪む。眼窩の上縁と下縁には棘状突起が並ぶ。甲の前側縁には、眼窩外角の棘の後方に 3 本の大きな棘が並ぶが、眼窩外角の棘と前側縁第 1 棘との間に下肝域の 1 棘が見えるため、背面観では 4 棘に見える。前側縁の第 1, 2 棘にはそれぞれ 2, 3 本の副棘を具える。鉗脚は左右で大きさや形態が異なる。大・小鉗脚ともに腕節の上面は尖った顆粒で覆われ、内角に位置する 1 顆粒は最も大きい。腕節の内角は突出しない。掌部の外面は尖った顆粒で覆われ、この顆粒は大鉗脚よりも小鉗脚の方が尖る。歩脚は第 2, 3, 1, 4 歩脚の順に長い。第 1-3 歩脚の長節には、前縁の末端に小さな 1 棘を具える。この長節前縁の末端棘は、第 4 歩脚では大型個体の右歩脚のみに存在し、小型個体の左右および大型個体

Maenosono, T. 2021. Record of *Pilumnus habei* Takeda and Miyake, 1972 (Decapoda: Brachyura: Pilumnidae) from the south coast of Kyushu, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 48: 109-112.

☑ TM: Kankyosha, 1-4-5 102 Kyozuka, Urasoe, Okinawa 901-2111, Japan (e-mail: maenosono@kankyo-sha.co.jp).

Received: 2 November 2021; published online: 3 November 2021; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_048/048-023.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-023.pdf)

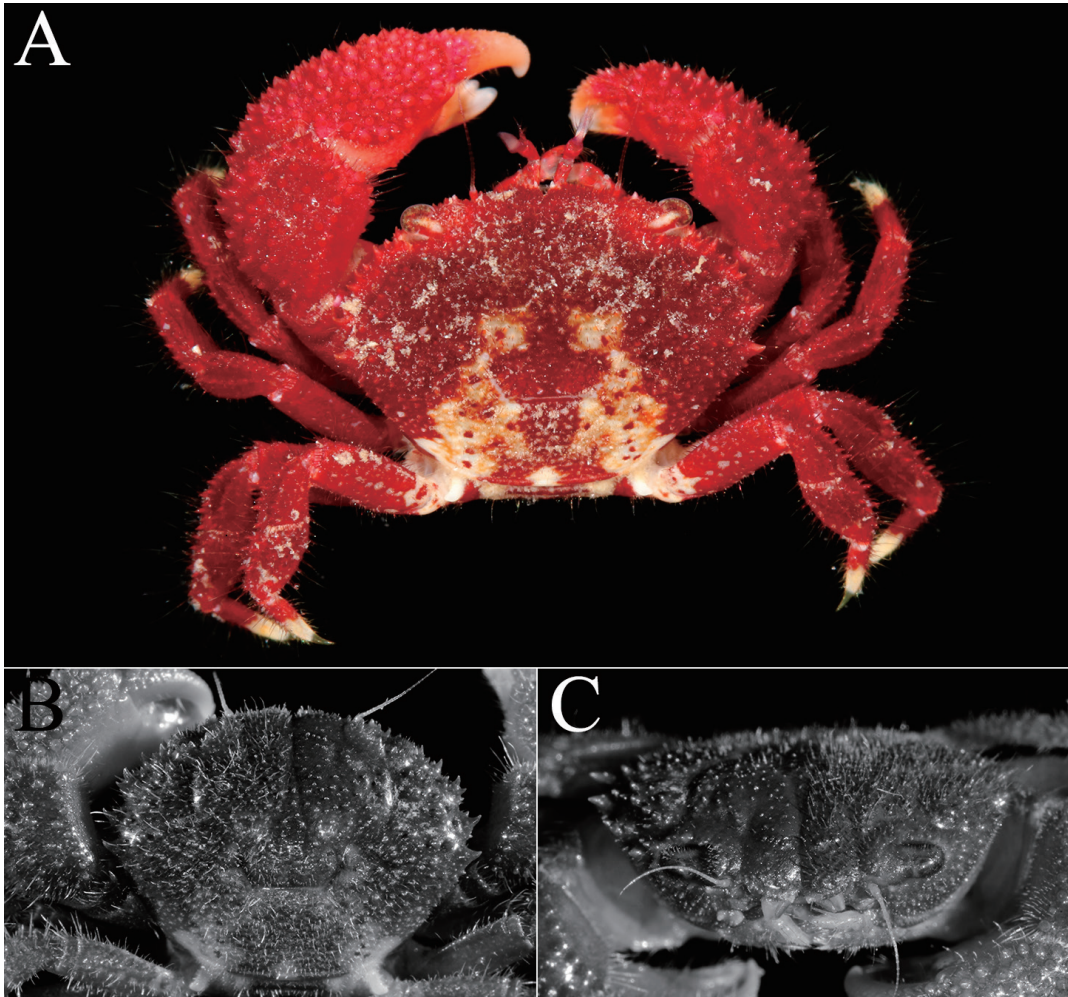


Fig. 1. *Pilumnus habei* (RUMF-ZC-7141, male, 6.5 × 8.9 mm). A, entire animal, dorsal view; B, carapace, dorsal view; C, cephalothorax, dorsofrontal view. B, C, setae on the right half removed.

の左歩脚では欠いている。すべての歩脚の腕節と前節には、前縁および上面の前縁近くに棘が並び、上面に並ぶ棘よりも前縁の棘の方が大きい。腹節は第1-3腹節（ほぼ同幅）が幅広く、第4腹節から尾節にかけて次第に幅が狭くなる。尾節は先端が丸みを帯びた三角形である。第1腹肢は全体的に緩やかなS字型に曲がり、先端部は巻き込むように強く湾曲する。

**色彩** 甲の背面、鉗脚および歩脚の大部分は赤色である。甲背面の後半部にはハの字型の乳白斑を具え、歩脚の指節の先端半分も乳白色である。

**備考** 検討標本の形態的特徴は、Takeda and Miyake (1972) および武田 (1976) で示されている

るハベケブカガニ *Pilumnus habei* の記載や図とよく一致した。本種の本記載では体色について記載されていないが、本研究の検討標本の体色は、「甲は明るい茶褐色」とした渡部 (2020) の記述と若干異なる。一方、モノクロ写真であるが武田 (1976: fig. 2B) で示された本種の写真では検討標本と同様に甲の後半部にハの字の明色斑が確認できる。検討標本の体色と渡部 (2021) の記述との相違は、個体変異または表現の違いであると考えられる。

ハベケブカガニの原記載 (Takeda and Miyake, 1972) では、本種とサガミケブカガニ *P. dofleini* Balss, 1933 の識別形質が挙げられているが、Takeda and Miyake (1972) 以降、サガミケブカガニ

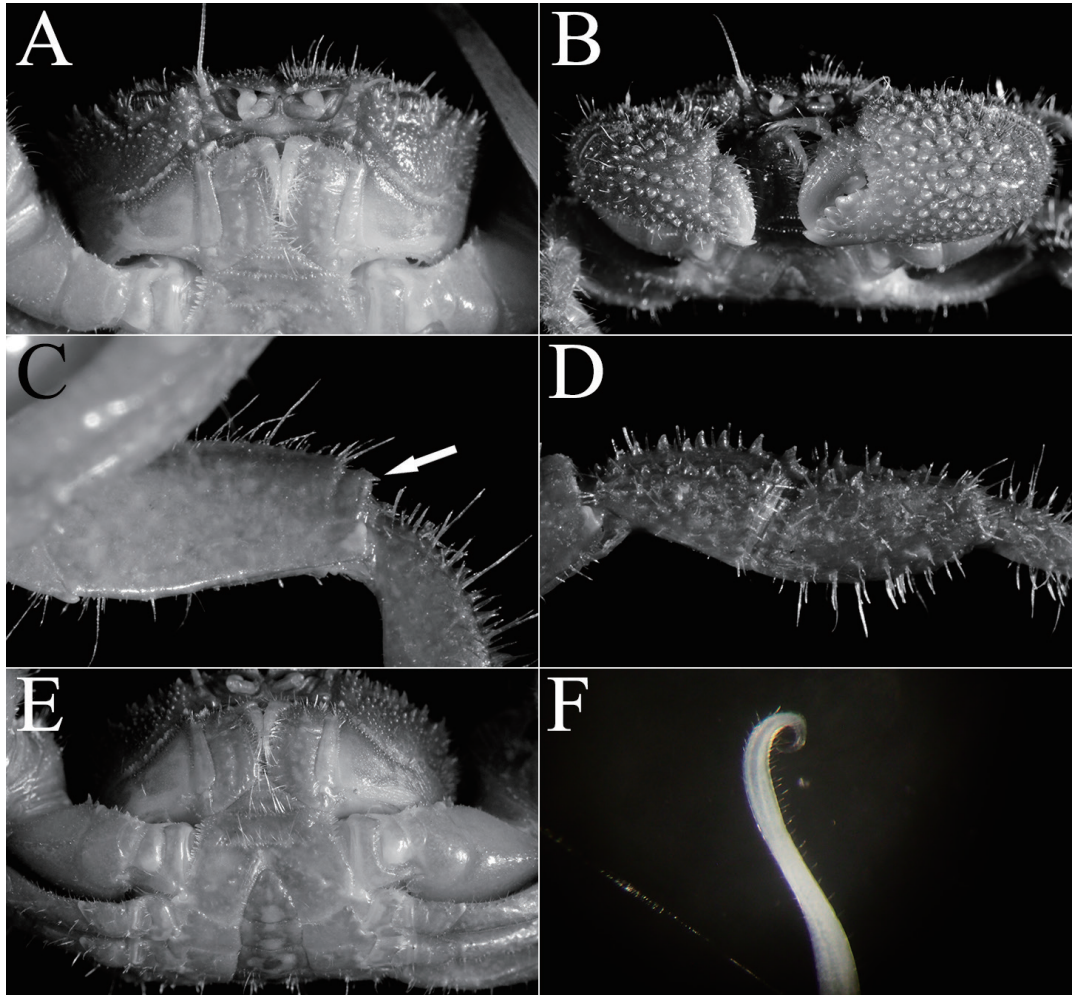


Fig. 2. *Pilumnus habeii* (RUMF-ZC-7141, male, 6.5 × 8.9 mm). A, cephalothorax, frontal view; B, chelae, outer view; C, left third ambulatory merus (arrow indicates a distal spine of anterior margin), lower view; D, right third ambulatory carpus and propodus, upper view; E, cephalothorax, ventral view; F, distal part of right first gonopod, lateral view. C, D, setae partially removed.

に類似する4種 (*P. acanthosoma* Ng, 2000; *P. armatus* Komai and Motoh, 2012; サガミケブカガニモドキ *P. curvipenis* Komai and Motoh, 2012; *P. bohol* Komai and Motoh, 2012) が新種記載されている (Ng, 2000; Komai and Motoh, 2012). これら4種にサガミケブカガニを加えた5種 (以降, サガミケブカガニ類似種群と表記) とハベケブカガニの識別形質は次の通りである: (1) 甲はハベケブカガニの方が幅広く (甲幅/甲長 = 1.37 以上 vs. 1.1-1.2), 前後方向の膨らみが強い; (2) 甲背面の顆粒は, ハベケブカガニの方が小さく数は多い; (3) サガミケブカガニ類似種群は, 歩脚の長節の

前縁および後縁にも棘が並ぶ; (4) 雄の第1腹肢の先端部は, ハベケブカガニでは巻き込むように湾曲するのに対して, サガミケブカガニ類似種群では鉤状に湾曲 (*P. bohol* 以外の4種) または僅かに湾曲 (*P. bohol*) する (Takeda and Miyake, 1972; 武田, 1976; Ng, 2000; Komai and Motoh, 2012).

奥野ほか (2021) は, ハベケブカガニのタイプ産地 (千葉県小湊) に近い千葉県勝浦において, 本種に類似したケブカガニ属の未同定種 *Pilumnus* sp. を採集している. 奥野ほか (2021) は, この勝浦産の種とハベケブカガニとの識別点として甲の幅広さ (ハベケブカガニの方が幅広い) と剛毛

の長さ（ハベケブカガニの方が短い）を挙げたが、体色の違いも識別点として有効であろう（Fig. 1A vs. 奥野ほか，2021：fig. 3N）。

ケブカガニ科では、歩脚の棘の有無が重要な分類形質になる場合が多い。Takeda and Miyake (1972) が指摘している通り、本種の歩脚の長節前縁の末端棘を観察する際には注意が必要である。この棘は腕節や前節の棘と比べて非常に小さく細く、さらにこの棘が位置する周辺は剛毛が密生しているため、注意深く観察しないと見落とす可能性がある。なお、この棘は歩脚の下面側からの方が観察しやすい。

**分布** 千葉県，和歌山県，岡山県，山口県，香川県，鹿児島県（九州および種子島）で確認されており（Takeda and Miyake, 1972; 武田，1976；丸村・小阪，2003；渡部，2020；本研究），海外からの確認記録はない。

**採集環境** 検討標本は、巨石の根元に溜まった礫・砂利の堆積物の中から採集された。水深は大潮の干潮時に約 1 m であった。

## 謝 辞

標本の収蔵に関してご協力をいただいた琉球大学熱帯生物圏研究センターの成瀬 貫氏にお礼を申し上げます。

## 引用文献

- Komai, T. and H. Motoh, 2012. The identity of *Pilumnus dofleini* Balss, 1933 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Pilumnidae), with descriptions of three new species from the Western Pacific. *Zootaxa*, 3305: 1–27.
- 丸村真弘・小阪 晃，2003. 永井誠二コレクション カニ類標本目録. 和歌山県立自然博物館，海南.
- Ng, P. K. L., 2000. The Indo-Pacific Pilumnidae XIII. On a new species, *Pilumnus acanthosoma* (Crustacea: Decapoda: Brachyura), from Taiwan and the South China Sea, with notes on *P. dofleini* Balss, 1933. *Zoological Studies*, 39 (4): 301–306.
- 奥野淳兒・村田明久・高山順子，2021. 千葉県立中央博物館分館海の博物館所蔵標本に基づく千葉県勝浦市吉尾周辺の潮間帯産十脚甲殻類相（甲殻亜門：軟甲綱）. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告，特別号，11: 73–84.
- 武田正倫，1976. 種子島の磯および周辺海域の十脚甲殻類. 国立科学博物館専報，9: 151–161.
- Takeda, M. and S. Miyake, 1972. Pilumnid crabs of the family Xanthidae from the West Pacific. IV. A new *Pilumnus* in the collection of the National Science Museum Tokyo. *OHMU Occasional Papers of Zoological Laboratory, Faculty of Agriculture, Kyushu University*, 3 (7): 57–62, pl. 2.
- 渡部哲也，2020. ハベケブカガニ. 岡山県野生動植物調査検討会（編），岡山県版レッドデータブック 2020 動物編. P. 732. 岡山県環境文化庁自然環境課，岡山.